2022 年 5 月 11 日

近畿労働金庫
理事長　石村　龍治　様

「2021 年度近畿ろうきんＮＰＯアワード」選考結果報告書

2021 年度近畿ろうきんＮＰＯアワード審査委員会
審査委員長　阿部　匡伴

「2021 年度近畿ろうきんＮＰＯアワード」審査委員会で決定した受賞団体について、選考結果を以下のとおり報告いたします。

１．審査について

審査にあたっては、2021 年 12 月 1 日から 2022 年 1 月 31 日までに応募があった 66 団体の応募書類をもとに、各審査委員が事前審査を行い、4 月 12 日に開催した審査委員会において各受賞団体を選考しました。

選考の結果、審査委員会にて、大賞を 1 団体、優秀賞を 1 団体、奨励賞を 5 団体、はぐくみ賞を 4 団体とすることを確認しました。審査委員は下記のとおりです（敬称略）。

なお、応募団体の理事・監事に就いている審査委員は、その団体の審査からは外れることとしましたが、該当する審査委員はいませんでした。

○　審査委員長　阿部　匡伴　（近畿労働金庫 近畿推進会議 議長）
○　審査委員　　山縣　文治　（関西大学 人間健康学部 教授）
　　岡田　智恵　（コープともしびボランティア振興財団 事務局長）
　　八尾　高伸　（近畿労働金庫 地域共生推進室 室長）

２．受賞団体の決定にあたって

本アワードは子育て支援をテーマに実施し、近畿 2 府 4 県から総計 66 件の応募がありました。

2021 年度の応募内容の特徴は、コロナ禍により顕在化・深刻化している子育ての課題への対応として、「子どもの学習支援」「子どもの居場所づくり」「子ども食堂」「不登校の子どもと親の支援」「障がい児支援」などに対する取組みが多くみられました。

また、「はぐくみコース」には、小規模で活動年数も短い団体から「地域の子育て課題に新たにチャレンジするプログラム」の応募も多く、少ない財源で活動を進めるＮＰＯにとって、本アワードのような助成が必要であることをあらためて確認することができました。

審査は、応募プログラムの「先進性」「創意工夫」「社会性」「実現性」「効果と発展性」「共感と市民参加」「資金計画の妥当性」「新規チャレンジ性」の項目に加えて、応募団体の「組織の継続性・運営体制・活動歴」や「市民主体性」の項目も基準とし、選考しました。

「はばたきコース」では、多くの審査項目で高い評価を受けた 1 団体に〈大賞〉、僅差で

はありましたが１団体に〈優秀賞〉、５団体に〈奨励賞〉、「はぐくみコース」では４団体を選定しました。(※各受賞団体の応募プログラムの内容や審査講評は、次ページ以降をご確認ください)

また、受賞団体以外の団体についても、子育て支援に関する課題に対する取組みへの熱意は受賞団体に匹敵するものであったことを付け加えておきます。

３．今後の提言として

「近畿ろうきんＮＰＯアワード」は、働く仲間の教育ローン利用が、子どもたちの未来と地域の子育て支援につながる仕組みをめざして、公募型の助成プログラムとして2006年度から実施され、これまで169団体に総額3,666万円の助成金をお届けしました。

応募プランは、いずれも社会的ニーズにもとづいた切実なものばかりで、「子育て支援」が勤労者にとって共通する社会課題であり、とりわけ、働く仲間の暮らしを支える「ろうきん運動」に相応しい事業であると考えています。

審査委員一同として、「近畿ろうきんＮＰＯアワード」のような「組合員のろうきん利用をとおして地域の課題に対応するＮＰＯを応援する事業」を継続いただくことを強く要請する次第です。

また、会員推進機構とともに事業を進める「ろうきん」として、地域のＮＰＯを応援するプログラムを数多く実践されていることを各会員組合において、ぜひ伝えていただきますようお願いいたします。

４．最後に

「近畿ろうきんＮＰＯアワード」の審査委員を2011年度から務めていただいた岡本瑞子さま（ＮＰＯ法人子どもＮＰＯ和歌山県センター前理事長）が、2022年2月にご逝去されました。

岡本さまには、子ども支援の現場の目線から、応募団体に対して、温かいメッセージを数多くいただき、本アワードの取組みを長年に渡り、支えていただきました。

心よりご冥福をお祈り申し上げます。

※次頁以降の「団体の活動内容」および「応募プログラムの内容」は、応募団体からの申請書の内容にもとづき掲載しています。

～はばたきコース～

＜大賞　１団体＞

■　東灘こどもカフェ（兵庫）／助成額 30 万円

「こ」を育み輝かせるプログラム

～自立と共生をテーマに、小さなボランティアのスタンプカード活動をベースにした講座～

団体の活動内容	当団体は「こどもたちに、食をテーマに、夢を実現するためにサポートする」ことを目的に 2011 年 4 月に設立した。多世代交流の居場所づくりを 3 カ所の活動拠点で実施し、年間のべ 3 万人とつながりを広めている。具体的な活動は以下のとおり。 〇多世代交流の居場所づくりを年間 363 日実施 〇何でもお手伝い活動として、植栽剪定や掃除などを実施 〇昼食弁当の宅配活動を年間約 13,000 食実施 〇子育て世代への食支援活動を毎週約 120 世帯に提供
応募プログラムの内容	本プログラムは、子どもの時代を生き抜く力を育み、個性を活かし、自らが光となって生きていける子どもに育てることを目的に 20 の体験講座を年間 60 回開催する。 体験講座は、傾聴力、伝える力、表現力、書く力、料理を作る、食べる、もてなす心、子育ての仕方などを親と子どもが共に学ぶ内容である。 核家族や共働き家庭の増加が原因で日常生活をとおして知ることができない生きるための知恵、勉学と同じくらい大切な生活の知恵を、地域のその道の達人が講師となり体験講座を実施する。
審査講評	本プログラムは、地域の大人たちとの連携による 20 の体験講座を通して、「勉強以外の大切なことを教える機会」、「子どもたちが生きるための知恵を身につける場所」を提供する内容となっている。 20 の体験講座を年間 60 回に渡り開催し、のべ 300 名の子どもたちに、これから生きていくための大切なことや知恵を学ぶ機会を提供するという活動量の多さに対して、「社会性」「効果と発展性」の審査項目において高く評価した。 また、本プログラムでは、体験講座の実施に当たり、地域のＮＰＯや社会福祉協議会、生協、商店などと連携することで、地域で子どもから大人まで多世代のつながりを作ることもめざしており、「共感と市民参加」「市民主体性」の観点から高く評価した。 今回のプログラムを契機として、今後、子どもの「わからない」をよりリアルに共感できる中高生が講師となり、教える場とともに自ら学ぶ場を提供することで、学ぶ楽しさの地域での循環サイクルを作っていくことも構想されており、さらなる活動の広がりを期待したい。

＜優秀賞　１団体＞

■　ＮＰＯ法人キリンこども応援団（大阪）／助成額 30 万円

こども食堂に通う子どもたちが自主的に運営する「キリンこどもカフェ」の運営

団体の活動内容	今の子どもたちは自己肯定感が低く、自分の未来に希望を持っていない若者が多いという点に課題意識を持ち、当団体は、自分の未来に自信をもって踏みだせる人たちであふれた社会の実現に寄与することを目的に、以下の運営を行っている。 ○「さのだい子ども食堂キリンの家」の運営（月 16 回） ○泉佐野市および貝塚市においてフードパントリーの開催（月 100 世帯） ○フリースクール「キリンのとびら」の運営
応募プログラムの内容	本プログラムは、大阪府内の子ども食堂に通う子どもたちが、地域のために運営・企画するイベントとして、「キリンこどもカフェ」を開催するプログラムである。 コロナ禍のなか職業体験の授業がなくなった子どもたちが、配膳・調理からメニュー開発や採算管理までを担う就労体験事業として実施する。 本プログラムを通じて、地域の皆さんに貧困対策だけではなく、子どもたちの居場所であるこども食堂の周知と、地域の大人と交流を図りながら、子どもたちが自分の未来を踏み出せるよう成功体験をつみ、自己肯定感を高めることをめざしている。 また、事業の最後に、泉佐野市教育委員会や全国こども食堂支援センター「むすびえ」と共催し、地域の皆さまや全国のこども食堂関係者に対して、オンラインで報告会を実施する。
審査講評	本プログラムは、コロナ禍の影響で就業体験や世代間交流の機会が少なくなった子どもたちにカフェの運営をとおして、子どもたちの自己肯定感を高め、地域との交流を促すことをめざしており、「社会性」の審査項目において高く評価した。 また、子ども食堂に通う子どもたちが自ら地域に開かれたカフェを運営することで、子どもの貧困や居場所づくり等の社会課題を地域の皆さんに知ってもらうことに主体的に関わるプログラムである点を「新規・チャレンジ性」の観点から高く評価した。 本プログラムの実施を通して、子どもたちが成功体験をつみ、自己肯定感を高める機会となること、また、本プログラムが今後も継続実施されることを期待したい。

＜奨励賞　5 団体＞

■　神戸みらい学習室（兵庫）／助成額 20 万円

「すべての子どもに、等しく教育の機会を。」

経済的事情や不登校、発達障がいで塾に通えない中学生への無料学習支援サービスの提供

団体の活動内容	当団体は、神戸市西区と東灘区で様々な事情で塾に通えない中学生（計 60 人）を対象に毎週日曜日に無料学習支援サービスを提供している。 大学生や大学院生、社会人の講師が約 40 人在籍し、個々の子どもの状況や家庭事情と講師の特性を踏まえたマッチングを行い、サービスを提供している。 また、当団体負担による外部模試受験により成果を見える化し、大学生の講師が中学生に勉強する意味を発表する「夢ゼミ」を開催している。
応募プログラムの内容	本プログラムは、中学生への無料学習支援サービスを提供するプログラムで、以下の取組みを実施する。 ○「神戸みらい学習室」（学園都市校・本山校）にて、宿題や中間・期末テスト対策を中心とした無料学習支援を実施。 ○発達障がいの受講生に対する個別支援プログラムを東京大学先端科学技術研究センターの協力を得て実施。 ○当団体が呼び掛けて 2018 年 10 月に設立した「神戸学習支援協議会」を通じて、各団体のノウハウや課題を共有・検討し、共同研修会を開催。 ○行政や企業等の支援者との交流を深めるため、意見交換会や卒業イベント等の交流事業を実施。
審査講評	本プログラムは、当団体の代表者が神戸市職員として勤務するなかで得た経験や課題意識を活かし、制度の狭間により、行政の支援が届きにくい子どもたちに無料学習支援サービスを行うものであり、「社会性」「効果と発展性」の審査項目において高く評価した。 また、行政からの委託料や補助金に頼らず、ボランティア講師による学習支援と企業等による助成金や協賛金、寄付金による運営を行っている点を「共感と市民参加」、「組織の継続性・運営体制・活動歴」の観点から高く評価した。 今後、大学と連携した発達障がいの受講生に対する個別支援プログラムや地域の学習支援団体との連携をとおして、様々な事情を抱える子どもたちへの学習支援の輪を広げていくことを期待したい。

■　吹田子ども支援センター（大阪）／助成額 20 万円

不登校・発達障がい・貧困家庭の子どもとその親を支援する事業

団体の活動内容	不登校児童の生徒は全国で 19 万人以上となり、吹田市内でも 540 人以上に達している。当団体は、発達障がいや貧困、家庭事情を抱え、不登校となった子どもたちを支援するために、吹田市の元教師、臨床心理士などが中心となり設立し、家を出られない子どもへの家庭訪問や支援センターに通う子どもたちへの学習支援を行っている。
応募プログラムの内容	本プログラムは、今、大きな社会問題となっている不登校問題に対し、元教師や市民、大学生等がスタッフとして、相談や学習支援を行うプログラムである。具体的には、以下の取組みを行う。 〇親の相談と支援 親の多くは相談相手もなく孤立しており、身近で日常的に相談することのできる人を求めている。しかし、公的機関の相談窓口は様々な制約があり、民間の相談窓口は高額の相談料が必要で、貧困家庭では利用できない。長年の教職経験を持つ元教師や、専門性を持った市民が親の悩みに寄り添い、子育ての助言や課題解決の具体策を提示する。 〇子どもの相談と支援 引きこもっている子どもには家庭訪問を重ね、話し相手となり、学習支援を通じて自信と希望を見つけだす手助けをし、学校復帰を促していく。 支援センターに来ることのできる子どもには、そこを居場所とし、スタッフや子ども同士が話し相手になり、学習支援を通じて自信と進路の希望を回復させ、学校復帰を促す。
審査講評	本プログラムは、不登校の子どもと親を対象に、元教師や専門家がスタッフとなり、親の悩みに寄り添い、子育ての助言や課題解決の具体策を提示するとともに、子どもの話し相手や学習支援を行う事業であり、「社会性」の審査項目において高く評価した。 また、当団体は過去 9 年間、不登校となった子どもたちの支援を続けており、スタッフやサポーター、地域の子ども支援の団体との連携も広がっている点を「効果と発展性」「共感と市民参加」の観点から評価した。 当団体の支援を受けた子どもが大学生や社会人となり、当団体のスタッフとして加わる事例も紹介されており、今後、活動を継続することで、不登校の子ども支援のネットワークが地域で広がっていくことを期待したい。

■　籔の傍（京都）／助成額 20 万円

親子で～楽しく遊んで～竹林イメージチェンジ

団体の活動内容	当団体は、次世代の親子が竹林に足を向けたくなるような竹林整備システムの構築をめざし、放置竹林を借り、竹産業や農業、防災減災、環境支援などの知識や経験をもつ人が中心となり、設立した。 設立後は、放置竹林の整備をとおした、親子向けのイベントや行政・大学・専門学校との連携取組みを数多く実施している。
応募プログラムの内容	本プログラムは、生活様式の変化で、立ち入ることもなく、放置された竹林に積極的に立ち入り、刃物を使い、竹を伐り、廃竹を集めて火をおこして炊飯し、食器や道具を親子でつくるプログラムである。 竹遊びから竹林の生態や管理の方法を自然に身につけながら、タケノコ掘り、幼竹を採取したメンマづくり、藁敷き、土入れと「美味しいタケノコ」が育つ竹林づくりを行い、竹林の循環の大切さを学び、野外でも活動できる次世代の親子を育成することを目的とする。
審査講評	本プログラムは、放置された竹林の整備を親子が参加するイベントとして実施することで、放置竹林の整備とともに、親子のつながりや子ども同士のつながりを育み、環境や景観の大切さを次世代に伝えることを目的としており、「効果と発展性」、「共感と市民参加」の審査項目において高く評価した。 今後の取組みとして、放置竹林を子どもたちが立ち入っても安全で楽しく活動できるフィールドにし、近隣のタケノコ農家や放置竹林所有者との連携も展望されており、放置竹林の整備の取組みが地域に広がっていくことを期待したい。

■ Minami こども教室（大阪）／助成額 20 万円

外国につながる子どもたちの教育保障体制の強化

団体の活動内容	当団体は、外国人家族の孤立は地域の問題であるという認識のもと、「外国につながる子どもたち」を対象に学習支援を行っている。現在 100 名以上の子どもたちの登録があり、子どもたちはフィリピンや中国、タイ、ブラジル、ルーマニア、韓国など多様な文化的背景を持っており、言語的な課題だけではなく、移動歴や生育歴も複雑で、個別の支援が必要となっている。 毎週火曜日に地域の会館に子どもたちが集まり、ボランティアとともに宿題や日本語学習、苦手な教科の勉学に励んでいる。
応募プログラムの内容	本プログラムは、コロナ禍の影響を受け、経済的にひっ迫する外国人家庭の子どもたちが教育と福祉において不利益を被ることないよう、支援を行うプログラムである。具体的には、以下の取組みを行う。 〇小学生の対話的学習の強化 「わかる喜び」「学ぶ楽しさ」を感じる場を提供。特に対話的日本語学習を取り入れ、ボランティアと子どもの一対一のやりとりから語彙力や作文、発話する力を養う。 〇中高生のキャリア教育 中学 3 年生への受験支援とともに高校生の進学や就職の相談にも応えていく。また、在留資格によって進学の選択肢が狭まることもあり、専門家を招いて外国につながる子どもたちのためのキャリア講座を開催する。 〇社会体験活動 家庭や学校での「しんどさ」を吐き出させる居場所づくりや、課外活動を一緒に行うことで、大人との信頼関係と子どもたち同士の支え合いの関係を築く。
審査講評	本プログラムは、コロナ禍の影響を受け、経済的にひっ迫する外国人家庭の子どもたちを支援するプログラムとして、学習支援だけでなく、進学・就職支援や子どもたち同士の支え合いの関係作りもめざしており、「先進性」「創意工夫」「社会性」の審査項目において高く評価した。 当団体では地元の学校や行政、社会福祉協議会と連携し、活動を進められており、今後、外国につながる子どもたちの教育と福祉を地域で支える団体として、本アワードの助成を契機により一層の役割発揮を期待したい。

■ HotHot～ほどほど～（滋賀）／助成額 20 万円

ベビー＆キッズ用品および学校必需品等の「リユース BOX」設置、「ほどほど食堂」の開催、「ホッと♡HOT 弁当」の配布

団体の活動内容	当団体は、彦根の古民家を借りて「お母さんたちが気軽に交流できる場所」をつくったのをきっかけに子育て支援をめざす団体を設立。具体的な活動として、ベビー＆キッズ用品、制服・体操服のリユース（再利用）事業や、困窮家庭へのお弁当配布、親子食堂などの活動を行っている。
応募プログラムの内容	本プログラムは、子育てしやすい街づくりの推進をめざして、以下の取組みを行う。 〇ベビー＆キッズ用品および学校必需品等の「リユースＢＯＸ」の設置 まだ使えるベビー＆キッズ用品や小学校・中学校・高校の制服や体操服などのリユースが金銭的負担の軽減、貧困問題の一助になるように市内の学校や企業に回収ＢＯＸを設置して、リユース事業を拡大する。 〇「ほどほど食堂」の開催 公共施設等で誰が来てもいい食堂の運営、またコロナ禍でも必要な方に食を届ける仕組みづくりに寄与する。 〇「ホット♡ＨＯＴ弁当」の配布活動 行政を通じて、困窮家庭限定のお弁当配布を行う。
審査講評	本プロクラムは、コロナ禍で生活困窮家庭が増加し、入学時に子どもの準備物を用意できない家庭や生活困窮が理由で不登校になった子どもたちをリユース事業や、地域食堂・お弁当配布により地域で支える取組みであり、「社会性」「共感と市民参加」の審査項目において高く評価した。 また、本プログラムではリユース事業を通して、彦根市でのプラスチックゴミの削減もめざしており、行政や地域の学校・企業等との連携を深めながら、本プログラムの活動を継続いただくことを期待したい。

～はぐくみコース～<はぐくみ賞　4 団体>

■ 藤の木セカンドハウス（京都）／助成額 10 万円

希望ある未来を子ども・若者と一緒に作り上げる「地域の居場所」

団体の活動内容	当団体は、お腹をすかせたまま保護者が帰ってくるのを待っている子どもや若者の夜の居場所を作りたいと、市営住宅の空き室を使用した「藤の木セカンドハウス」を開設。月 2 回の子どもへの夕食提供、宿題、予習・復習などの学習支援を実施。また、居場所のない若者を対象とした若者食堂を 2022 年 1 月から始めている。
応募プログラムの内容	本プログラムでは、藤ノ木学区のひとり親・共働き世帯の子どもが安心・安全に過ごす「地域の居場所」づくりで以下の取組みを行う。 〇小学生を対象に学習会と夕食を提供する「藤の木子ども食堂」の実施 〇中学生・高校生を対象に夕食と遊ぶ場を提供する「若者食堂」の実施 〇子ども・若者を対象に食料の無料提供を行う「フードパントリー」の実施
審査講評	本プログラムは、地域の子ども・若者の課題に着目し、市営住宅の空き室を使用し、食・学習・遊びを組合わせた支援取組みとなっており、「先進性」「効果と発展性」「共感と市民参加」の審査項目において高く評価した。 今後、地域での子ども・若者支援の拠点となっていくことを期待したい。

■ フリースペース S-BASE（兵庫）／助成額 10 万円

学びたい時に、学びたい場所を選択し、社会へ飛び出そう！

団体の活動内容	当団体は、不登校で居場所がなく苦しんでいる子どもや家族への「居場所」を提供することを目的に、子どもの居場所を提供する「フリースクール事業」や不登校の子どもを持つ親を対象に相談会や体験教室を実施する「親のサポート事業」を行っている。
応募プログラムの内容	本プログラムは、不登校や引きこもりの子どもたちが社会とつながるために、地域に住む多様な人と交流し、その経験から社会性の獲得と自己肯定感の向上を目的に取組みを行う。 具体的には、地域の人材を先生として招き、料理教室、陶芸教室、木工教室などの「体験型教室」、大学生との交流による「学習支援」を行う。
審査講評	本プログラムは、不登校や引きこもりの子どもたちへの支援として、体験型教室と地域の多様な人材との交流により、自己肯定感を取り戻し、コミュニケーション能力を身につける内容となっており、「創意工夫」、「新規チャレンジ性」の審査項目において高く評価した。今後、本プログラムの実施により、行政や学校との連携を深め、不登校や引きこもりの子どもたちと家族にとっての地域の拠り所になっていくことを期待したい。

■ Mommy's　Place（奈良）／助成額 10 万円

奈良県初ピアサポーターの養成および多胎児サークルの運営～多胎児の妊娠・出産・育児のよりよい環境づくり～

団体の活動内容	当団体は、母子が心身ともに穏やかに過ごす環境を整えることをめざして、検診同行や沐浴・子どもの見守り、家事、健康に留意した食事作りなどの支援を行っている。また、心身の不調により育児が困難な方、多胎児出産の方への支援も行っている。
応募プログラムの内容	本プログラムは、多胎児の母親への産前から就学までの継続的支援を行うプログラムであり、具体的には以下の取組みを行う。 〇母親と行政・育児関連機関をつなぐピアサポーター養成講座の開講 〇多胎児の母親の孤立を防ぎ、社会とつながる安心を感じてもらうための交流会（多胎児サークル）の開催
審査講評	本プログラムは、出産も育児も負担が大きいと言われている多胎児の母親への継続的な支援を目的とした内容であり、「社会性」「効果と発展性」「新規チャレンジ性」の審査項目において高く評価した。 本プログラムで養成されたピアサポーターや支援を受けた多胎児の母親が、今後、地域に根差した多胎児支援の担い手となることを期待したい。

■ かれーやさん（兵庫）／助成額 10 万円

地域で作る子どもの居場所 こども食堂（かれーやさん）

団体の活動内容	当団体は、コロナ禍でより助長された生きづらさを抱える子どもたちの社会的孤立をなくすため、園芸療法士・元学校教員・介護職員などが集まり、「子ども食堂」や「学習支援」などの活動を行っている。
応募プログラムの内容	本プログラムは、地域の登録スタッフの特徴から調理・学習・悩み相談・園芸療法・農業体験等の支援を行うことができる子ども居場所づくりをめざしている。 「子どもと一緒に料理を作る子ども食堂」や「学習支援」、「園芸療法によるストレス緩和」の実施を通して、生きづらさを抱える子どもと親への支援を行う内容となっている。
審査講評	本プログラムは、生きづらさを抱える子どもたちと一緒に料理を作り、学習や園芸を行うことで、子どもの達成感を醸成するとともに、親との信頼関係を築き、早めの支援につなげることをめざしており、「社会性」「効果と発展性」の審査項目において高く評価した。今後は、地域の NPO や社会福祉協議会との連携により、生きづらさを抱える子どもたちとその親への支援がより広がっていくことを期待したい。